【2019 年度 闇鍋 解答と解説】

1.

問 1. イ：文章㋑の出典は 2005 年刊行のハンナ・アレント『政治の約束』(J. コーン編、高橋勇夫訳、筑摩書房、2018 年）所収の論考「ソクラテス」であり、とりわけアレントが、対話法によって市民らの相対的真理を見出そうとしたソクラテスについて論じた箇所。アレントによれば、ソクラテスによる複数性の承認は裁判官らを説得できず（ソクラテスの果てしない質問は市民らの富や影響力やその他の物質的利益の追求を混乱・阻害するとみなされた)、彼は有罪宣告に甘んじることで自らの信念の正しさを示した。ソクラテスに師事したプラトンはこのことから、市民らの物質的な利害がより切実な倫理的思想の妨げになっていることを見抜き、市民らとの対話によって見出される相対的真理ではなく、唯一のイデアの超越的真理、善のイデアによる統治を構想した。現代政治理論の教科書などでよくいわれるように、アレントにおける「公共性」や「公的領域」は、アテナイのようなポリスをモデルとしており、複数の市民が自らの意見（ドクサ）を語り、また他者の意見に傾聴するような開かれた場として特徴づけられる。また、他の選択肢のアヴェナリウス、西周、ニーチェの生没年はそれぞれ、1843-1896 年、1829-1897 年、1844-1900 年であり、いずれも設問にある「20 世紀に著した論考」にそぐわない。アレント（1906-1975）がこの論考を執筆した年代は明らかではないが、『政治の約束』の編者でありアレントの教育助手も務めたジェローム・コーンによれば、1951 年刊行の『全体主義の起源』から派生した構想として、『政治の約束』所収の他の大部分の論考とともに 1950 年代に執筆されたようだ。

問 2. ア：アレントの著作は選択肢のなかでは『全体主義の起源』(1951）のみ。フリードリヒ/ブレンジンスキーの『全体主義的独裁と専制支配』とともに、第二次大戦後、ナチズムとソ連共産主義体制の類似性を強調する包括的な全体主義研究の代表として有名。『他者の権利』(2004）はベンハビブ、『歴史と終末論』(1958）はブルトマン、『歴史の概念について』(1942）はベンヤミンの著作。

問 3. ア：文章㋺の出典は 1923 年刊行のマルティン・ブーバー『我と汝・対話』(植田重雄訳、岩波書店、1979 年)。宗教哲学者ブーバー（1878-1965）によれば、合理主義的な近代人はもっぱら「われ」「なんじ」「それ」などの個々の人称どうしの結びつきを認識してきた（とりわけ自然科学では、世界、存在、人間は「われ」が認識する対象であり、対象化によって認識は可能になる)。しかし、「われ」「なんじ」「それ」以前に、より根源的に「われ－なんじ」の関係の世界があることをブーバーは指摘している。この世界や存在は「われ－なんじ」の相互性によって成り立っており、「われ－なんじ」の対話

的思惟によって理性や合理性を真に生かすことができるとされる。

問 4. エ：問 3. の解説を参照。ブーバーの著作は選択肢のなかでは『我と汝』(1923) のみ。『純粋経験批判』(1888-1890) はアヴェナリウス、『致知啓蒙』(1874) は西周、『道徳の系譜』(1887) はニーチェの著作。

問 5. ソクラテス：問 1. の解説を参照。

問 6. プラトン：問 1. の解説を参照。

問 7. 説得（「説諭」など、漢字二字でさほどニュアンスに差異がなければ許容）：問 1. の解説を参照。ソクラテスの対話はしばしば、同時代のソフィストの説得術と混同された。空欄 C 前後の「persuasion」や「女神ペイト」もヒント。

問 8. ドクサ：問 1. の解説を参照。一般に、真理（ないしエピステーメー）と対照され、「臆見」「思い做し」と訳されることもある。文章㋑では市民らの相対的な意見（opinion）とほぼ同義で用いられている。

問 9. 対話：問 1. および問 3. の解説を参照。文章㋑の終盤に「プラトンの初期の対話篇」として問われているので、似た熟語でも「対話」以外は不可。

2.

問 1．オ：例えば、寛永通宝銅一文銭は 1 厘として通用し、法貨であった。小額通貨の整理及び支払金の端数計算に関する法律によって、一円未満の通貨である、銭と厘が廃止されたことで、寛永通宝は法貨ではなくなった。http://www.shugiin.go.jp/internet/itdb_housei.nsf/html/houritsu/01619530715060.htm 参照。

問 2. カ：金本位制は事実上廃止されていた。しかし、通貨の単位及び貨幣の発行等に関する法律まで、貨幣法が廃止されておらず、金本位制に基づく金貨が法貨のままであった。https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=362AC0000000042 参照。

問 3．五十：1951 年に高橋是清を肖像とする、五十円紙幣が発行された。

問４．二十：臨時貨幣法は通貨の単位及び貨幣の発行等に関する法律によって廃止されたが、臨時貨幣法(改正後)によってすでに、二十倍までとする形式が定められていた。https://elaws.e-gov.go.jp/search/elawsSearch/elaws_search/lsg0500/detail?lawId=362AC0000000042 参照。

問５．ブラキストン：人名に関しては、ブレキストンやブレーキストンなどの表記があるが、ブラキストン線は表記が定まっており、ブラキストン以外、不可。ブラキストンは 1832～1891 年の人物。http://archives.c.fun.ac.jp/hakodateshishi/tsuusetsu_02/shishi_04-08/shishi_04-08-01-05-02.htm 参照。

問６．アトム：アトム通貨は早稲田や高田馬場周辺で流通する地域通貨。単位は馬力である。手塚治虫の『鉄腕アトム』において、アトムが高田馬場で誕生したという設定が由来。atom-community.jp/ 参照。

問７．ＭＭＴ：ＭＭＴは現代貨幣理論(Modern Money Theory/Modern Monetary Theory)の略。https://www.newsweekjapan.jp/stories/business/2019/08/mmt-1.php および https://www.jiji.com/jc/v4?id=foresight_00270_201907090001 参照。

問８．リブラ：リブラ(Libra)はフェイスブックが中心となって、発行が進められている。2019 年 6 月 18 日に発表された。反対意見も多い。https://libra.org/ja-JP/white-paper/ および https://tech.nikkeibp.co.jp/atcl/nxt/column/18/00138/080200348/ 参照。

3.

問 1. フロンドの乱：1648 年から 49 年が法服貴族(nobless de robe)達の反乱の時期にあたり、「高等法院のフロンド」(la Fronde parlementaire)と呼ばれる。50 年から 53 年が帯剣貴族(nobles d'épée)達の反乱の時期であり、「貴族のフロンド」(la Fronde des princes)と呼ばれる。(参考：渡邊守章、柏倉康夫、石井洋二郎『フランス文学』(放送大学教育振興会、2003))

問 2. バロック：ポルトガル語「barroco」(バローコ)に由来するとされる。はじめ反古典主義的な作品を貶める意味合いで用いられたが、やがてルネサンス最盛期以降の釣り合いや調和を重視しない作品群に独自の価値が認められ歴とした美術用語に。その後に文学の領域においても使用されるようになった。(参考：田村毅、塩川徹也編『フランス文学史』(東京大学出版会、1995 初、1998 二版))

問３．『百科全書』：文学史的事件。なお、ドゥニ・ディドロは作家としても有名で、『ラモーの甥』等の作品で知られる。ジャン・ル・ロン・ダランベールは物理学者としても有名で、ダランベールの原理を打ち立てた。

問４．『ポールとヴィルジニー』：作者ジャック＝アンリ・ベルナルダン・ド・サン＝ピエールは、２５歳離れた年上のジャン＝ジャック・ルソーとの交友でも知られる。現在は殆ど『ポールとヴィルジニー』という作品のみが有名な存在であるが、自然に囲まれた楽園での生活の始まりと終わりを描くこの小説は人々の心に強く訴えかけるものがあったらしく、ナポレオンも愛読した。

問５．デカダンス：デカダンス（Décadence）の枠組みは捉えにくいが、頽廃・悪趣味・新奇といったものがキーワード。ジャン・ピエロ『デカダンスの想像力』がよく参照される代表的な研究書だが、彼によると「世紀末二十年間に現れたすべての文学的傾向の共通分母にほかならない」。（参考：ジャン・ピエロ『デカダンスの想像力』（渡辺義愛訳、白水社、1987、原書は 1977））

問６．ウ：答えはウの澁澤龍彦。サドの翻訳・紹介で最も知られる。手に入り易いものとして、『さかしま』は河出文庫で 2002 年に、『仮面の孔』収録の『暗黒怪奇短篇集』は同じく河出文庫で 2013 年に刊行されている。

問７．ベルトラン：アロイジウス・ベルトランは 19 歳の頃から散文詩集『夜のガスパール』を書き始めた。その草稿はサント＝ブーヴに認められたものの、生前は出版に至らなかった。散文詩という新たな形式はボードレール等に大きな影響を及ぼした。初版発行は 1842 年。（参考：浅野晃編『フランス詩集』（白鳳社、1966））

問８．マラルメ：ステファヌ・マラルメ。前衛的な詩的試みにより文字表現に新たな可能性を開拓。彼自身が招待した人のみ集まる毎週の火曜会からは 20 世紀を彩るヴァレリー、ジッド、クローデル等の偉大な作家を輩出した。引用文はゴードン・ミラン『マラルメの火曜会　神話と現実』（柏倉康夫訳、行路社、2012）による。